



すべての視力障がい者に福音を！ キリスト教良書を！

ホ・ロゴス

2017年10月
54号

ὁ λόγος

ホ・ロゴスとは、ギリシャ語で「言葉」という意味。英語に言い換えると“The Word”。このタイトルは、静岡盲人伝道センター広報誌第2号（1969・11月発行）から使われ、ヨハネによる福音書の冒頭「初めに言（ことば）があった。言は神と共にあった。」から引用された。視力に障害を持つすべての人に福音を、という熱い祈りが込められている。



維持会員募集中!

当センター事業の維持・継続のために、皆さまのご入会をお願いしています。維持会員への加入は、1ヶ月一口100円から受け付けます。詳しくはセンターへお問い合わせください。

主は、小さな働きにも 光を与えてくださいます!

稲垣 弘
(岐阜加納教会)

デイジー編集の恵み

デイジー編集の奉仕を2004年から続けて今年で13年になります。最初の頃はセンターの御指導を頂きながら、編集したファイルを何度か修正して完成させていましたが、近頃ようやく再編集の要請が少なくなって来ました。

デイジー編集は音声訳され、校正を施されたデジタルファイルを規定に従って編集して行きます。以前はカセットテープに収録されていた朗読音声を変換する作業が必要で、センターから貸与されたアナログ・デジタル変換機相手に四苦八苦しました。今では音声ファイルがデジタルデータとしてUSBに収録されて編集者に届けられますので、編集作業は負担が軽くなっています。

このように音声訳されたファイルはデイジー編集によって完成し、CDにコピーされて利用者に届けられるのですが、その製作過程での音声者・校正者のご労苦は、原本を数回精読し、読みなどの確認を行うなど計り知れないものがあると伺っており、センター職員のご指導と併せて感謝いたしております。



「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。」（マタイ18:20）
T.S画

私のデイジー編集の奉仕は、自分の仕事の区切りがついたときに、丁度センターが音訳奉仕者を募集していて、音訳本の充実を願っておられる利用者の方々に少しでも手助けができないかとの思いで、講習会に参加させていただくこととなってからです。この13年の間に130冊ほどの信仰書・神学書の編集に携わることが出来ました。編集の過程で、その全ての原本を通読出来たことは何ものにも代えがたい恵みです。

また、昨年にはセンターのご推薦をいただき、鉄道弘済会の音訳・デイジー奉仕者表彰の一端に連なることを許され、デイジー編集の小さな働きに光が与えられ感謝しております。

これからも盲人伝道センターの働きの上に、また多くの奉仕者や利用者の方々の上に、それぞれが小さな働きではあっても、主が共にいてくださり、その伝道の業が豊かに祝福されますよう、心からお祈りしております。

静岡キリスト教育人伝道センター広報誌「ホ・ロゴス」第54号

2017年10月発行

発行人：青山昭一郎 印刷：ワークホーム聖恵

発行：静岡キリスト教育人伝道センター

〒422-8041 静岡市駿河区中田一丁目5-21

Tel 054-285-0496 Fax 054-285-0746 振替 00870-2-7003

Eメール：shizumouden@dct7.net HP：http://www.dct7.net/

開館時間：祝日等を除く月曜日から金曜日 午前9時～午後5時

センターはこんな働きをしています！

静岡キリスト教盲人伝道センターは、初代理事長故青山輝徳牧師（全盲）が、すべての盲人へ福音を届けたいという篤い思いから始められたキリスト教図書専門の点字図書館です。視力に障がいのある方、また高齢や病気等で活字での読書が困難な方々のために、点字図書・録音図書の製作と貸し出しを行っています。インターネットの点字図書館・サピエネット図書館に加盟して、製作したデータを提供しています。

トピックス

■推薦図書

宗教改革500年記念事業の推奨図書 4冊が点訳完成！

今年マルティン・ルターが、ヴィッテンベルクの城教会の扉に「95か条の論題」を提示して500年になります。

『「キリスト者の自由」を読む』

ルター研究所編著

『エンキリディオン小教理問答書』

ルター著

『アウグスブルク信仰告白』

メラニヒトン著

『マルティン・ルター ことばに生きた改革者』

徳善義和著

(いずれもリトン発行)



以上4冊の推奨図書の点訳が完成しました。音訳にも取り掛かっています。

■テキストデージーに チャレンジ中！

テキストデータを合成音声で読み上げるデージー図書制作の取り組みを始めました。読み上げる時に誤読がありまだまだ工夫が必要ですがご期待ください。

■表彰 おめでとうございます！ “犬山音訳グループ虹の会”

第65回全国盲人福祉施設大会において、ボランティア表彰を受賞されました。月刊誌「百万人の福音」他、10年以上の音訳を続けてくださっています。心より感謝いたします。

すべては主の恵み・あかし

現代社会は殺伐としています。連日報道される悲しい事件、労働条件の悪化や孤独社会の不安とともに、日本を取り巻く社会情勢も不安がひろがります。

しかし、どのような時でも、私たちに主は祈ることができ、希望のみことばと聖霊の励ましを受けることができます。今回は、困難な中を生き抜いた、キリストを力強く証した人々の著作をご紹介します。

◆『わたしの隠れ場』

コーリー・テン・ブーム著、1975年、いのちのことば社発行

(CD1枚、点字7冊)

戦争の不安におびえていたオランダの片田舎。貧しいが幸せな一家に何が起こったのか。映画「隠れ家」としても有名な、ナチスドイツのユダヤ人政策に身をもって抵抗した婦人のあかし。



◆『主よ、私の祈りをお聞きください 夫と歩んだ「妻の闘病記」』

葛井康子著、2016年、日本キリスト教団出版局発行 (CD1枚)

神さまは「苦しい」と叫んでも、祈っても、すぐには応えてくださらない。でも必ず応えてくださる！胃がんを克服した夫を襲った脳腫瘍。治療例のほとんどない無菌性髄膜炎との生死をかけた戦い。医療関係者・友人・家族、そしてみ言葉に支えられて祈りつつ歩んだ「妻の闘病記」。



◆『人生を変える出会いの力 闇から光へ』

五十嵐弘之著、2016年、ドン・ボスコ社発行 (CD1枚)

前科3犯、延べ約20年間を刑務所の中で過ごしてきた著者が、さまざまな出会いをとおして自分自身を見つめ直し、支援者や元受刑者の仲間たちと再犯のない社会の実現を目指す。回心と償い、再生と希望の書。



◆『天晴れ！ ぶれなかった人たち 日本史クリスチャン人物伝70』

熊田和子著、2015年、いのちのことば社フォレストブックス発行

(CD1枚)

ザビエルから三浦綾子まで、日本に大きな影響を与えた70名の、志を貫いた天晴な人生を紹介。



貸し出し希望の方は、いつでも盲伝センターまでお知らせください。

ご利用いただいています！

プレクストークで読書をする、橋本とおるさん。(静岡市)

橋本さんは、先天性脳性麻痺で、身体が不自由です。でも、この頃、センターからいろいろ図書を借りて、読書を楽しんでいます。身体が不自由な方にもセンターではCD図書を貸し出します。ぜひご利用ください。(詳しくはセンターまで)



**RIE KIMURA
& RISA KIMURA**

木村 りえ さん、 りさ さん

(愛のクリスト教会員・ピアニスト)



クリスチャンの 双子姉妹ピアニストとして

私たちは双子姉妹のピアニストです。所属教会ではそれぞれ主日礼拝の奏楽をする他、「りえ・りさ Duo」として年2回、教会主催でチャペルコンサートを開いています。また各地の教会などからお招きいただき、集会での奏楽やコンサートなどをさせていただいております。

コンサートでは、ピアノソロと連弾を組み合わせることが多く、そのために二人で力を合わせて讃美歌をピアノ連弾用に編曲しています。

そんな二人ですが、洗礼の時期や与えられたみことばはそれぞれ違います。



姉の木村りえは、大学のレポートを書くために2002年から教会へ通い始め、箴言14章26節の「**力強い信頼は主を恐れることにあり、子たちの避け所となる。**」というみことばにより慰めを与えられ、2006年5月に受洗しました。その後、「礼拝のための前奏曲」をいくつか作曲し、主日礼拝や伝道集会で用いております。

妹のりさは、聖書や週報、歌集など点字で読めると知り、2007年から教会へ通い始め、ローマ人への手紙5章15節の「**ただし、恵みには違反の場合とは違う点があります。もしひとりの違反によって多くの人が死んだとすれば、それにもまして、神の恵みとひとりの人イエス・キリストの恵みによる賜物とは、多くの人々に満ちあふれるのです。**」というみことばによって希望が与えられ、2009年12月に受洗しました。

* 聖句は新改訳聖書

次回のチャペルコンサートは 11月18日(土)
詳しくは、愛のクリスト教会へお問い合わせください。
神奈川県伊勢原市笠窪 461-4 電話 0463-63-1015

奏楽やコンサートには何といても点字楽譜が必要です。愛のクリスト教会では、現在「教会福音讃美歌」を用いています。この歌集の発行は2012年でしたが、伊勢原点訳赤十字奉仕団の楽譜担当の方々による1年以上にわたる労苦が

あり、2014年4月から教会で用いることが出来るようになりました。

原本の中には様々な書式が入り混じっており、どのように点訳していただくか私たちも共に試行錯誤しました。これは奉仕団の方々の丁寧な説明がなくてはとても出来ないことでした。後で開かれた感謝会で、64番「喜べ、主をたたえよ」を連弾で賛美しながら、選曲して指で一音ずつ読み取り、自分たちで自由に編曲が出来ることを、心から喜びました。

最後にそれぞれ一言ずつ挨拶いたします。



りえ：あるとき、神様が私の養い手であることにきづかされました。それ以来、音楽で主に仕える仕事をしたい、いわば「賛美の人」になりたいと思うようになりました。ピアノの他、オルガンで奏楽することも時々あります。足りない者ですが、賛美の器としてたくさんの機会を得たいと願っています。よろしくをお願いします。



りさ：年2回のチャペルコンサートで奉仕するようになってから、祈れる幸せとイエス様のお支えの強さを年々感じるようになりました。もう元には戻れません。祈りのあるところ、イエス様がおられる場での奏楽や演奏が増えることを切に願っています。どこへでもうかがいます。よろしくお願いたします。



「何をするにも、ただ神の栄光を現すために」

田中文人（利用者・福岡県）

私は、静岡盲伝センター（以下、センター）製作の図書や月刊誌を点訳や録音図書で読んでいます。近年は、全国の点字図書館、公共図書館の障がい者サービスが充実してきました。そこで、他の施設にもキリスト教信仰関連の図書が増えてきています。ですが、キリスト教用語の読み方で、センターの図書は、安心して読むことができ、その点でセンターの働きの意義は大きく、大変感謝しています。

ところで、以前、私が「録音図書を速回しで聞いている」とお話ししたところ、気分を害された朗読者の方がおられました。

確かに、下調べから始まり何度も練習して録音に入り、校正を経て仕上げた図書を1.5～2倍速で聞かれるならば、大きな労力を無視されている様にお感じなることも理解できます。ですが、録音、点訳奉仕は何のためにしているのかが明確であれば、それ程失望しないのでは…とも思います。視覚障がい者は「情報障害者」だと言われます。この情報障害を補うために、「与えられている視覚を用いて情報を提供している」と、誇りをもって奉仕していただければ幸いです。

この情報障害の補いのもう一つの側面、情報取得の早さの点では、テキストデイジー形式の図書がかなり有益と私は考えます。朗読もテキストデイジー図書もそれぞれに良さがあります。

奉仕者の方々も、読者の私たちも、主の栄光を現すために（1コリント10章31節）という思いで、これからもセンターの図書を活用させていただきたいと願っています。奉仕者の方々とセンター職員、何より一人一人を立ててくださっている主に感謝しながら。

主なる神さまに感謝して

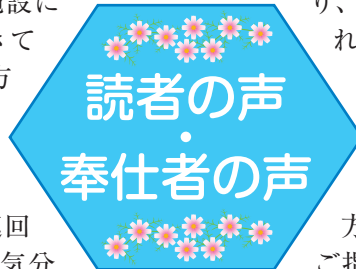
鮎川千織（デイジー奉仕者・静岡市）

主の導きにより、昨年9月中旬を迎えた頃、信仰の先輩であり、また盲伝センターにて多くのご奉仕をなさっておられるT姉妹からのお声かけとご紹介により、デイジー編集奉仕に携わる機会が備えられました。T姉妹との出会いは、主が、まさにその時、「尋常でない恵み」が与えられて、私にとって必要なお方として出会わせてくださったと思います。

そのような中で、盲伝センター職員の方、デイジー編集ご担当のスタッフの方にご指導いただき誠に有り難く存じます。ご多用にもかかわらず、きめ細かなご助言をいただき、安心して編集に携わっております。

思い起こしますと、30代半ばには神学校の図書館勤務に導かれたこともありました。現在50代半ばを目前にして、デイジー編集へと導かれたことも、主の御計らいと思わずにはいられません。今あることを顧みましても、主への感謝の応答として、視覚に様々なご事情をお持ちの方々へキリスト教良書をお届けするためにお仕えさせていただく恵みに溢れています。そしてキリスト教書と向き合うことが、いかに幸なことであるか、ただただ主を仰ぎ感謝せずにはいられません。1冊のデイジー図書が完成に至るまでの道のりは、ご奉仕なさる方々の思いが添えられ、1本の櫂をつないで走る駅伝のように思いました。

全国どここの地においてもデイジー編集に携わることが可能であることをお聞きしております。御心ならば、末永く続けられますように主に祈ってまいりたいと思います。



センター便り

◇デイジーという言葉がすっかり普及しました。Digital Accessible

Information System（アクセスしやすい情報システム）の略でDAISY。視覚障がい者も読書困難な方々も比較的容易に操作できるし、必要な箇所を検索したり、葉をはさんだりすることもできるCD図書です。ただしデイジー図書を完成させる過程はかなり複雑で、文字を正しく音声化し、それを編集する作業があり、かなりの労力が費やされます。これらの作業はすべて全国の熱心なボランティアによって奉仕されています。

◇今では、電子書籍が普及して、パソコンの合成音で読書が出来るようになりました。視覚障がい者用にも、テキストデイジーとか、マルチメディアデイジーなど、合成音声を使って、かなり手早く情報を提供しようという試みが始まっています。でも日本語には複雑な固有名詞や漢字もあり、アクセントで意味が違ってしまふこともありますから、パソコン任せには嫌という利用者も多いのですが、いち

早く情報を求める研究者などには、喜ばれています。センターでも、早速テキストデイジーのソフトを購入しました。

◇一昔前と違って、図書は比較的簡単に公共図書館や、学術書だったら国会図書館、インターネットならサビエ（厚労省補助の視覚障がい者情報ネットワーク）から取り寄せることが出来るようになりました。

◇でも、センターは、単なる図書館ではありません。「すべての視覚障がい者にキリストの福音を届ける」ことを使命としています。キリスト教の良書を、古典から入門書まで、丁寧に揃えていきたいと願っています。

◇センターは、現在400名余の視覚障がい者に愛され、利用されています。そしてこの貴重な図書館を支えてくださっているのは、全国の皆さまからの献金のみです。昨今の図書形態にあわせて、センターでも新しい運営をしなければなりません。センターが真摯に主に仕え、一人でも多くの方に福音を届けることが出来ますように、多くの方に利用されますように、皆さまのお祈りとあたたかいご支援を心からお願いいたします。（S）